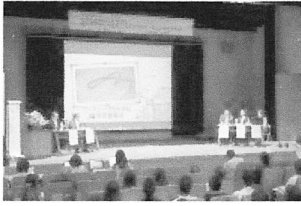


## 障害者が働き、暮らせる社会を考える

ツイートする おすすめ 1 おすすめ チェック ?

写真の拡大 +



障害者が仕事を持つ意義などについて意見を交わした集い

障害者が一定の収入を得られる社会づくりを考える集い「所得を保障する支援とは～重い障害者でも地域で生きるために・新しい価値の創造」が、福岡市中央区の市市民福祉プラザで開かれた。保護者や就労支援施設の職員など、約150人が出席した。

障害者が豆腐の製造などを行っている社会福祉法人「はらから福祉会」(宮城県柴田町)の武田元理事長が基調講演した。「仕事を持ち、自分の暮らしは自分で支えるという自信が生きる喜びにつながっていく」と障害者が仕事を持つ意義を強調。そのための環境づくりが支援する者の役割だと説いた。

武田さんや社会福祉法人「明日へ向かって」(福岡市)管理者の末松忠弘さんらのトークセッションでは、「障害があっても普通の生活をするのは当たり前という共通認識を地域で持つことが大事」などの意見が出た。

集いは、障害のある子どもを持つ母親らでつくるNPO法人「障害者より良い暮らしネット」(福岡市)が主催。同NPO代表の服部美江子さん(58)は「親がいなくなっても、障害者が幸せになれる社会になってほしい」と話していた。

(2012年5月22日 読売新聞)